

# 牛久：学校周辺に見る自然

第77号 ひたち野西近隣公園

2012年3月26日発行

## ＜ 冬の水辺公園 ～6. 一本の木に集まる生きものたち ＞

まぼろしの「冬の水辺公園」シリーズ。最後におまけで、一本のハンノキに集まる生きものたち、

他の紹介です。左はハンノキの幹ですが、ここにハンノキ以外の5種類の生きものがあります。さて、いくつ見つけられるでしょう？

ヒントは、クモの巣が一つ、カマキリの卵のうが一つ、ガのまゆが一つ、集団でかたまって冬越ししている虫がーかたまり、そして、幹をよじ登るつる植物があります。拡大写真も載せておきましょう。



クモの巣



かたまる昆虫



カマキリの卵のう



ガのまゆ



つる植物

←いくつ見つかるかな？答えは次ページ



クモの巣

ガのまゆ

ハラビロカマキリ  
の卵のう

ナツツタ

ヨコヅナサシガメの  
幼虫(集団越冬)

いくつ、見つけられましたか？このハンノキや、75号のエゴノキなどは、昆虫やクモなど、他の生き物が集まりやすい木のようにすね。そうした木に注目して、虫さがしをするのも面白いかもしれません。どの木にどんな虫が来るか、観察してみましょう。

つる植物はナツツタですが、69号で紹介したように、くるくる巻きついて登るのではなく、吸盤（きゅうばん）と気根（きこん）で、はりつきながら登っていきます。



ナツツタの吸盤(上)  
と気根(下)

その他、このシリーズでまだ紹介してなかったものをいくつか。

2月上旬くらいまでは、



ヨシの穂(左)とその拡大(中)、ヒメガマの穂(右)

左のヨシやヒメガマの穂がまだ残っていました。冬げしきに花のようで、逆光でながめたりすると美しいです。ヒメガマは、1本の穂に10万~20万個もの果実がつまっているようで、すごい数だなと思います。



こちらは、スギ。花粉症の私としては、この時期、あまり近寄りたくない木ですが、この写真は、まだ花粉の飛ばない2月上旬にとりました。針のようにとがった葉をもっていますね。このような樹木を針葉樹しんようじゅといいます。スギや松の仲間かんそうは、針のような葉をもつことで乾燥を防ぎ、寒さに耐えられるようになったと考えられています。

← 針のような葉をもつスギ。寒さや乾燥に強い。



乾燥すると葉が縮れるナミガタタチゴケ(左)と、葉が茎に密着するヒナノハイゴケ(右)。

こちらは、コケ植物の仲間。左は地上に生えるナミガタタチゴケで、乾燥すると葉が縮れてそれに耐えます。右は木の幹に生えるヒナノハイゴケで、同様に乾燥すると葉が茎に密着くき みつちやくします。



左は「モグラ塚」。モグラは冬でも活動し、地中のミズなどをつかまえて食べます。トンネルを掘り広げたり、補修ほしゅうしたりした土を、地上に積み上げて塚(つか)をつくるのです。

右は雪の後の公園。

【理科支援員 宮内】



掘った土を積み上げてできる「モグラ塚」。モグラは冬でも活動する。

雪のあとの水辺公園。アオサギがいる。